

長崎早生(ながさきわせ)

| | |
|----------------------|----------------------|
| 登録番号: 種苗名称登録第289号 | 育成者: 村松久雄 一瀬 至 |
| 登録年月日: 昭和51年3月19日 | 池田丈助 |
| 登録者: 長崎県(長崎市江戸町2-13) | 来歴: 「茂木」と「本田早生」の交雑実生 |

特 性

■栽培特性

本種は中生種の「茂木」に極早生系の「本田早生」を交配して育成した早生品種である。樹姿は直立性、樹勢は「茂木」よりやや強で、結果枝はやや太くて長い。葉形は「茂木」とほぼ同じで、葉脈、葉縁の鋸葉の状態も「茂木」と類似している。このようなことから、枝葉で「茂木」と区別することは非常に困難である。

花房の形は円筒形、軸側の着生方向は横向きで、果実は上向きに着果する。1花房に3~4個着果させると果実の肥大と揃いが良い。弱い花房には3個着果させることが望ましい。

開花期は「茂木」より20日程度早い。ピワの品種は、開花期が早いほど寒害を受けやすい傾向にあり、「長崎早生」も同様な特性を有するため中生種の「茂木」より寒害に弱い。

■果実特性

果実は親品種の「茂木」に似て卵形であるが、果梗部がやや張る。へそはやや開帳する。1果平均重は40~50gで、施設栽培では80gの果実もある。果皮は橙黄色で「茂木」よりやや赤味が強い。果汁の屈折計示度はおおむね12度前後、酸含量は0.2~0.3%、果肉は軟らかく多汁で、肉質は良い。

へそ部にへそ黒症およびへそ青症、果皮に裂果および紫斑症等の果皮障害が発生し易いのが欠点である。これらの障害は高温と強い光線によって発生することが多いので、とくに施設栽培では30℃以上にならないように管理する。また、光の透過の少ない袋の利用も効果がある。

熟期は露地では「茂木」より7~10日程度早い。収穫期は産地によって異なり、鹿児島県の南部諸島では3月下旬から4月上旬、長崎県では5月上旬から中旬である。

■病虫害抵抗性

ピワの主要な病害であるがんしゅ病抵抗性は「茂木」、「田中」と同様に弱いため、十分な防除が必要である。灰斑病、褐斑病、ナシマルカイガラムシ、ナシヒメシクイムシ等の病害虫に対してはとくに弱いものはなく、通常の防除で栽培できる。

■地域適応性

この品種の育成当時、長崎県の各地で試作的に栽培されたが、露地で寒害がなく安定的に生産できる場所はごく限られ、栽培面積は少ないものと思われていた。ところが、鹿児島県の温暖な南部離島では、寒害がなく、しかも早期に収穫できるため、本種の産地化がなされ育成地よりはるかに多い110ha以上で栽培されている。次に多いのは長崎県の約80haであるが、長崎県の場合は施設栽培での面積が多い。生産の安定と早期出荷の有利性から施設栽培面積が拡大されているが、新たに施設栽培を行う場合はほとんど本種が導入されている。

果実は-3℃に2時間以上遭遇すると凍死が多くなるため、-3℃にならない場所が適地といえる。「長崎早生」は「茂木」より寒害に弱いので、「茂木」より温暖な場所が必要である。土壌に対する適応性は広いが、重粘で土壌水分が多いと紋羽病が発生し易いので避ける。

(浅田謙介)